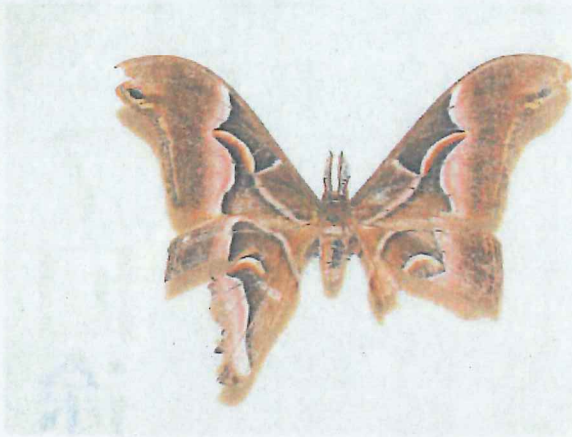


# 全国に広く分布も本県で見つからず…



本県で初めて見つかった神樹蚕。カラスなどに襲われたのか、後ろ側の羽が2枚とも切れていた。顔写真は中村剛之センター長

## ガ「神樹蚕」初確認

弘前

弘前大学の白神自然環境研究センター(中村剛之センター長)は、神樹蚕という名前のガを県内で初確認し、9月24日まで弘前文京キャンパスの大学資料館で展示している。北海道から沖縄まで広く分布しながら、なぜか本県では見つかっていなかった。北海道の意味で「珍しい」品種。羽を広げた大きさは約13センチで、県内で生息する昆虫では最大級という。(赤田和俊)

## 弘大で来月まで展示

中村センター長によると、神樹蚕はヤマムユガ科で、前側の羽の先が丸く飛び出しているのが特徴。全国の里山でよく見られるという。本州に9種類いるヤマムユガ科のガでは、神樹蚕だけが県内で見つかったおらず、地元研究者の間では謎の一つとされていた。名前の由来は、神樹とも呼ばれるニワウルシを餌にするためという。神樹蚕が見つかったのは7月24日早朝。同センターの横山裕正さんが、西目屋村でのガの調査を終えて弘前市街に戻る途中、店舗の軒先に止まっていたのを偶然見つけた。思わぬ発見に、横山さんは「ドッキリでも仕掛けられたのか」と思ったという。中村さんは「昆虫愛好家が長年かけて見つけれなかったのに、本県では生息できない理由があるので、と考えていた。まだまだ調査が足りないということだ」と笑って話す。同センターは7月11日から、大学資料館でチョウやガのコレクション展を開催中。神樹蚕は今年9日から展示に加えられた。資料館の開館時間は午前10時～午後4時。入場無料で日曜と祝日は休館。

※この記事は東奥日報社提供です。

この画像は、当該ページに限って東奥日報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

【問い合わせ先】弘前大学資料館

[jm3432@hirosaki-u.ac.jp](mailto:jm3432@hirosaki-u.ac.jp)